

令和4年11月

# 魚津市定例記者会見



日時：令和4年11月1日(火) 午後1時30分～午後2時20分

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、NHK、NICE-TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、情報広報課長、財政課長

## 1. 市長からの発表事項

### (1) 令和5年度魚津市行政経営方針について

- ・前文では、①新型コロナウイルス感染拡大防止策や物価高騰対策等に的確に対応していく必要があること。②生活や価値観、働き方などが大きく変化していることから、DXやSDGsを一層推進すること。③新たに策定した魚津市中期財政計画を踏まえて計画的に行財政運営を進めること。④若い世代を中心とした人口流出が喫緊の課題であることから人口減少対策を強力に推進することなどを掲げている。
- ・重点的に取り組む項目として3つを挙げている。まず、3年目に入る第5次魚津市総合計画に沿った重点施策をしっかりと進めていくこと。次に令和5年度の新しい項目として、子ども達の成長を応援する施策の強化すること。3つめは、昨年も掲げたコロナ・DX・ゼロカーボンについての施策。
- ・行財政改革の推進としては、財政健全化の目標を2年前倒しで達成したことから、今後は新たに策定した中期財政計画を踏まえ、計画的に行財政運営を進める。
- ・予算要求基準について昨年と異なる点は、前向きな予算とするためシーリングを緩めるつもりであること。具体的には、経常的事務経費について昨年度は前年度比-3%、さらに1年前は-5%であったのを±0%とし、政策的経費については昨年度-20%であったのを-10%とする。また奨励的な補助金についても昨年度の-3%を±0%とする。それらに加えて、事業費ベースで総額1.5億円程度の「子ども達の成長を応援する施策の強化（ふるさと子ども応援特別枠）」を設定する。1.5億円の根拠は、魚津市へふるさと納税として寄附されたお金のうち、希望する使い道として「子育て支援」と「市長へおまかせ」を選ばれた分の額から算出している。

- ・「社会の変化に対応した未来につなぐ施策の展開（未来づくり特別枠）」については、昨年の（社会構造対応枠）を名称変更したもの。内容と予算枠は昨年と同様、事業費ベースで総額1.0 億円程度とする。

### 魚津市中期財政計画（概要版）の説明

- ・魚津市中期財政計画については、令和元年度に策定した「魚津市財政健全化計画（令和2～6年度）」の目標を2年前倒しで達成したが、今後も社会保障費の増加や公共施設の再編などの財政需要があるため、それらに対応することを目的として策定したもの。計画期間は、令和5～9年度の5年間としている。今後の財政状況や新たな行政需要などを見ながら毎年見直しの予定。
- ・魚津市の財政状況について説明すると、市税は平成28年度をピークに減少傾向となっている。国・県支出金はコロナ交付金の影響で令和2～3年度にかなり増加している。義務的経費もコロナ対策のため扶助費が令和3年度に増加している。投資的経費は統合小建設のため平成28～30年度に増加したが、財政健全化計画策定後の令和元年度からは抑制されている。
- ・基金の状況については、平成27年度から減りはじめて30年度に最も少なくなり、財政健全化計画の取り組みにより回復し、現在、財政調整基金はほぼ10億円に到達した。
- ・令和5～9年度の財政収支の見通しについては、歳出の義務的経費が社会保障費の伸びに伴い増加傾向であり、投資的経費が温水プールの整備や新庁舎の建替えなどにより増加見込である。令和5年度の財源不足は今のところ1～2億円の予定。
- ・計画的な行財政運営に向けての今後の取り組みについては、5点を挙げている。毎年度の財源不足は、継続的な行財政改革の取組や国の補正予算、ふるさと寄附といった財源を確保することで解消していく。財政調整基金は、安定的な行財政運営に向けて適正な残高（10億円）を確保していく。公共施設整備基金は、令和5年度以降、毎年2億円以上を積み立てて、本格化する新庁舎整備に備え令和8年度末までに残高20億円以上確保していく。減債基金は、令和9年度以降、剰余金を活用しながらできるだけ積立していく。公共施設の整備スケジュールについては毎年度見直しを行いながら計画的に整備していく。

### 魚津市中期財政計画（詳細資料）の説明

- ・歳出の状況の義務的経費について、平成24年度以降、70億円台で推移してきたが、令和3年度においては、国の施策として子育て世帯臨時特別給付金の支給など新型コロナウイルス感染症対策に取り組んだことにより扶助費が増加し、80億円を超えることとなった。

- ・市債の状況については、テクノスポーツドームを建設した平成9年度がピークで200億円を超えていたが、その後は償還が順調に進み、平成19年度には150億円台まで減少した。その後平成28年度から実施した統合小学校の建設により市債残高が一時的に増加し、平成30年度末には173億円と再びピークを迎えたが、令和3年度以降においては、統合小学校の建設にかかる償還が進み、減少していく見込みとなっている。
- ・主な財政指標の経常収支比率の推移については、平成28年度以降、90%を超える高い水準で推移していたが、令和2年度においては、下水道事業会計への繰出金の減少などにより90%を下回った。さらに令和3年度においては80%台前半にまで改善している。
- ・財政見通しの概要について、歳入・歳出の見通しについては、公債費は、統合小学校の建設にかかる償還が令和5年度にピークを迎え、その後、中期的には減少していくものと見込んでいる。投資的経費は、中期的に温水プールの建て替えや旧小学校の解体のほか、新庁舎の整備などを見込んでいる。
- ・財政見通しの課題については、人口減少・少子高齢化による市税の減収が今後も見込まれるほか、扶助費や社会保障関連の繰出金が増加することが予想されている。また、公共施設の老朽化が進み、その対応も今後の大きな課題として挙げられる。これらにしっかりと対応できるよう、引き続き財源の確保や計画的な行財政運営に努めていく必要がある。
- ・計画的な行財政運営に向けて、財源不足への対応については、安易な財政調整基金の取崩しに頼ることなく、ふるさと寄附の増収に向けた取り組みを進めるなど財源不足の解消を図る。また公共施設整備基金への積立については、令和5年度以降、毎年2億円以上を公共施設整備基金に積み立てていき、本格化する新庁舎の整備に備え、令和8年度末までに公共施設整備基金残高20億円以上を目指す。
- ・〈別紙〉は主な公共施設の整備等スケジュールとなっている。ここまで出てきた数字（歳出予定額）はこれらを組み込んで算出している。ただし、総事業費として挙げている金額はあくまで仮の数字であり、必ずこの金額を使う訳ではないことを理解していただきたい。

## (2) UOZUゲームフォーラム2022の開催について

- ・令和4年11月12日(土)の午後に開催する。魚津市トライアルオフィス necco を会場にしてオンライン配信で実施される。セミナーでは日本ファルコム(株)代表取締役社長の近藤季洋さんによる講演が行われる。また、会場には県内のゲーム関連企業も集まる予定。

(3) 宮津霊園の愛称を募集します

- ・宮津霊園は昭和31年の魚津大火の後に整備された墓地で、現在約2,500区画の墓地があるが、この度市制70周年を記念して「愛称」を募集する。どなたでも1人2点まで応募可能で、募集期間は11月1日(火)から12月28日(水)まで。愛称採用者へは記念品としてMirapay 1万円分が贈呈される。なお、愛称の条件として、地区や地名の名前を入れないこととなっている。

(4) 寄附金の受領における感謝状等の贈呈について

- ・11月4日(金)の午前11時から、株式会社シキノハイテックからいただいた寄附金200万円についての感謝状等の贈呈を行う。同社が株式上場された令和3年度より、年間200万円を10年間(合計2,000万円)ご寄附いただける予定となっている。
- ・寄附は魚津市の健康づくりや子育て、若者の育成を支援し、明日を担う人づくりを目的とされている。魚津市では「シキノハイテック魚津市人づくり基金」を創設し、令和4年度は同基金から「創業者支援事業補助金(100万円)」と「魚津総合公園ふわふわドーム整備事業(100万円)」へ充当している。
- ・この寄附とは別に、平成23年度に㈱シキノハイテック様からの寄附金300万円を原資として「青年技能者育成基金」を創設している。この基金を活用し、これまでも「ものづくり青年技能者全国大会等出場に対する激励金」を交付している。

(5) 第3回魚津防火建築帯F E S

- ・11月20日(日)に中央通りで開催される。魚津中央通り商店街の防火建築帯は、当時の姿をほぼ残しており歴史的に特色のある貴重な建造物となっている。市内外の出店者(15店舗)による飲食・物販等が行なわれる。

(6) 魚津市・黒部市・入善町・朝日町連携 写真お見合い会の実施について

- ・新川2市2町の連携事業で実施する。写真でお見合い相手を選び、双方のマッチングが合えば、その日のうちに相手に出会えるイベントとなっている。男性の参加者は魚津・黒部・入善・朝日に在住または在勤の方となっていて、女性は富山県在住者となっている。当日の流れは、お相手選び～マッチング発表～マッチングカップルの顔合わせまでを行う予定。

(7) 転入者むけペーパードライバー講習会の実施について

- ・平成30年度から黒部市と連携して実施しており、高評価を受けている。車の運転に不慣れな都市部等から転入者を対象に講習会を実施するもの。日時は11月29日(火)の午後から。会場は黒部自動車学校。

## (8) 魚津の農林水産業体験・応援プロジェクト

- ・魚津の農林水産業を親子で学ぶ「親子体験会」を、7つのコースで1年間にわたり行っている。11月に開催する親子体験会は5コース。
- ・「うおづのさかな」は、おさかなランドで「かに籠漁」をテーマに開催する。「うおづのやさい」は慶野地内で小松菜の収穫を行う。「うおづのくだもの（6次化）」は小川寺地内の「ぶどうの森工房」で開催する。「うおづの田んぼ」は宮津の宮本みそ店で「味噌づくり体験」を行う。「うおづのくだもの（産地）」は六郎丸地内でりんご「ふじ」の収穫見学を行う。

## 2. 質疑応答の内容

### 「令和5年度魚津市行政経営方針」について

#### 《記者からの質問》

令和5年度も財源不足が発生する見込みであるのにシーリング（予算の要求基準）を緩めるのはなぜか？ 令和5年度予算の「ふるさと子ども応援特別枠」に計上したいと考えているものは既にあるか？

#### 《回答》（市長）

シーリングを緩めるのは（現場からの）予算の要求を出しやすくするため。要求が出揃った後に予算査定を行い財源不足分を調整する。なお、財源不足については、現在令和5年度について1億2,000万円ほど見込まれているが、財政健全化計画実行中は4～7億円の財源不足であったため、それに比べるとかなり少なくなっている。

「ふるさと子ども応援特別枠」については、魚津市の人口減少を「仕方ないよね」で済ませてはいけないため、これまでの施策の延長線上ではない事業を組みたいと考えている。職員にも市民と接する中で思い付いた応援策を提案して欲しいと呼びかけている。

### 「魚津市中期財政計画」について

#### 《記者からの質問》

この計画は11月1日が策定日となるのか？ また、魚津市財政健全化計画では財政調整基金残高を10億円超にするという目標があったが、この魚津市中期財政計画には基金残高の目標額はあるのか？

#### 《回答》（市長）

本日発表となるので、（記者会見当日の）11月1日が策定日となる。魚津市中期財政計画では財政調整基金残高の目標は設定していない。10億円を維持することが目標。

## 「ふるさと納税の見込み額」について

### 《記者からの質問》

歳入の見通し額に「ふるさと納税」で入ってくる額を入れているが、他の収入に比べて安定しているとは思えないが、あてにしても良いものなのか？

### 《回答》（市長）

「ふるさと納税」で入ってくる額は、実績から予想される額より少し抑えた額に設定してある。もし大幅に減少する見込みとなった場合は、計画を見直すこととなる。

## 「地方自治体の財政規律」について

### 《記者からの質問》

（魚津市中期財政計画に関連して）国に比べて地方は財政規律に縛られているという思いを持つことはあるか？

### 《回答》（市長）

国はお金を調達する手段を色々持っているが、地方自治体は増やすか、借金をするしかない。借金も国にある程度コントロールされているので無制限には出来ない。国からの補助金やふるさと納税で頑張るしかなく、地方自治体が動ける範囲はかなり狭いと感じている。